

**安曇野市子どもの権利に関する
アンケート調査報告書**

**令和6年11月
安曇野市議会**

目次

第1章 調査実施概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の主体.....	1
3. 調査対象.....	1
4. 調査方法・回収結果	1
5. 調査結果を見る際の留意点	1
第2章 調査結果・選択回答.....	2
1. 自分のこと、好きなことをする時間、ホっとできる場所.....	2
2. 家族や先生などまわりの大人について	4
3. 学びや学校生活.....	5
4. ふだんの生活の状況	6
5. なやみや不安、相談先.....	8
6. 子どもの権利や差別された経験.....	11
7. 住んでいる地域や安曇野市への定住意向	12
8. 調査結果のまとめ.....	13
9. 福祉教育委員会の考察と課題認識	13
第3章 調査結果・自由筆記回答.....	2
第4章 これからの議会の取り組み	2
参考 自由筆記回答の紹介と相談窓口	2

第1章 調査実施概要

1. 調査の目的

子どもの権利条例制定及び、教育振興基本計画策定に向けての基礎資料として、安曇野市内の児童・生徒の現状や意識を把握するために実施した。

2. 調査の主体

安曇野市議会と安曇野市教育委員会による合同調査とした。

3. 調査対象

- 対象者：安曇野市の小学校（4年生以上）、中学校、高校に通う児童・生徒
- 実施期間：令和6年7月1日（月）～22日（月）

4. 調査方法・回収結果

- 調査依頼方法：市内の小学校、中学校は二次元バーコード及び URL を印字した依頼状を一人ずつに配布し、インターネット経由での回答を依頼した。高校においては、掲示板に二次元バーコードを印字したチラシの掲示し、インターネット経由での回答を依頼した。
- 回収数：2,534人

図表 1 回収率

	児童・生徒数 (人)	回答数 (人)	回答率 (%)
小学校4年生	810	260	32.1%
小学校5年生	822	358	43.6%
小学校6年生	801	401	50.1%
中学校1年生	845	417	49.3%
中学校2年生	883	513	58.1%
中学校3年生	792	435	54.9%
合計	4953	2384	48.1%
高校1年生	—	82	—
高校2年生	—	29	—
高校3年生	—	37	—
その他	—	2	—
高校生・特別支援学校他を含む合計		2534	

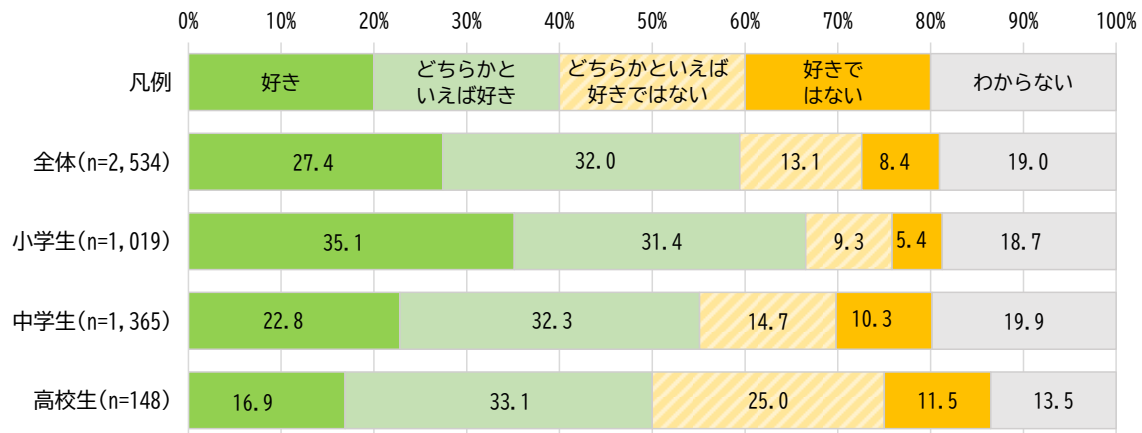
5. 調査結果を見る際の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や文中に示す数値とグラフの数値が一致しない場合がある。
- 図表内のnは該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。
- 1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、回答数の合計を回答者数(n)で割った比率を示しており、比率の合計は100%を超える。
- 回答結果の全体には、所属を聞いた設問（図表1）で「その他」と回答した人を含んでいるため小学生、中学生、高校生を合わせた数字とは一致しない。

第2章 調査結果・選択回答

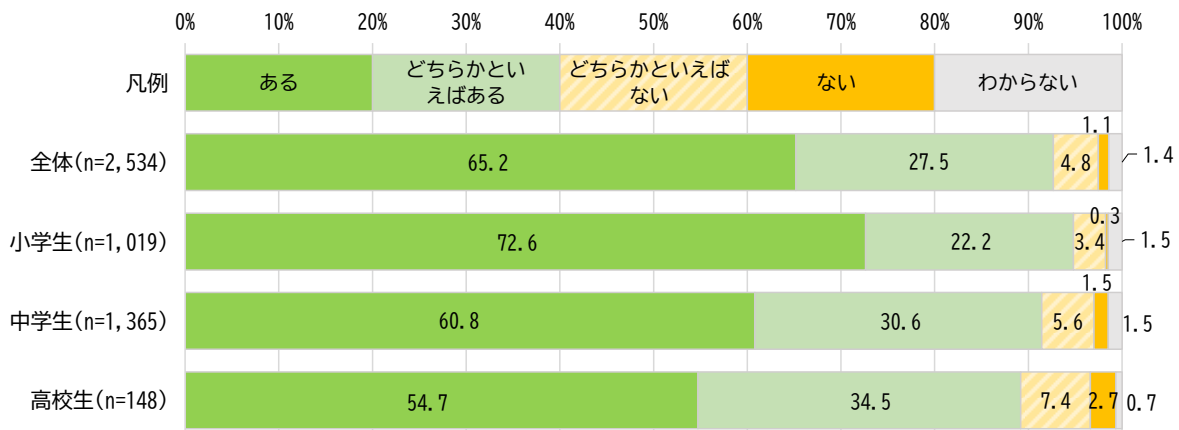
1. 自分のこと、好きなことをする時間、ホっとできる場所

図表 2 自分が好きですか



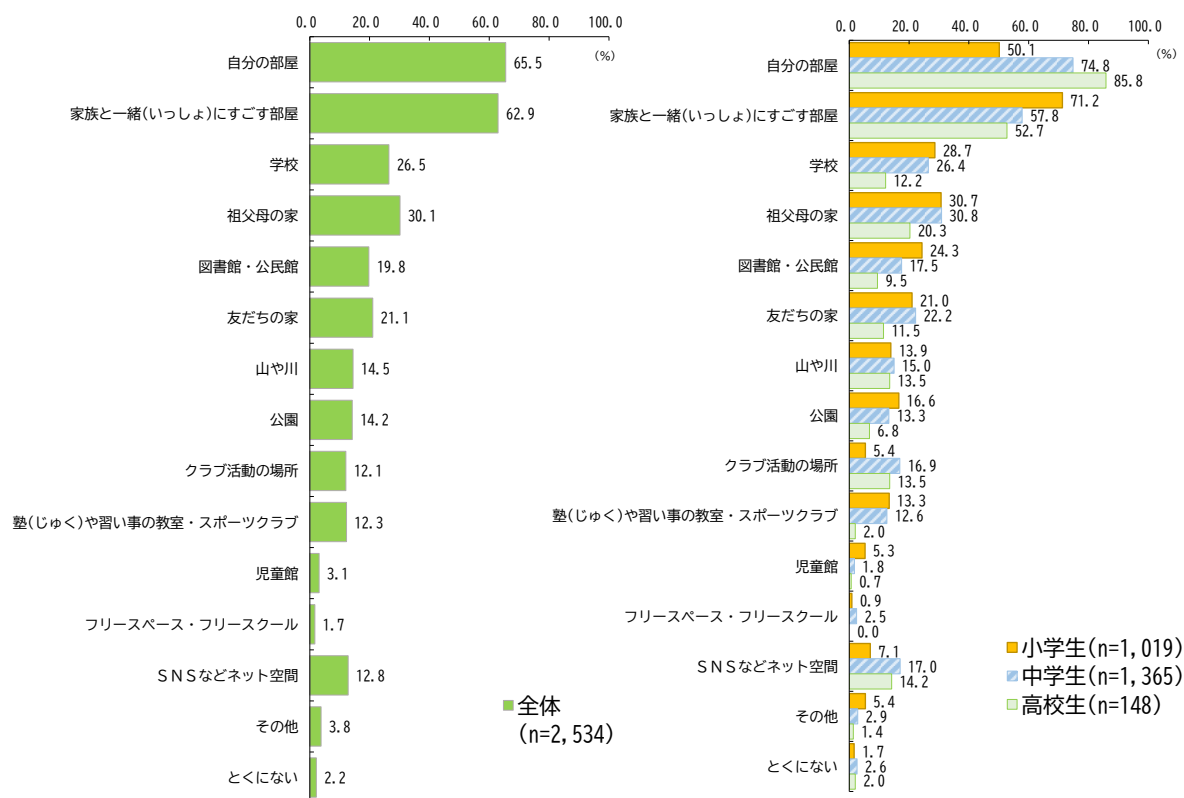
- 「好き」「どちらかといえば好き」をあわせた割合をみると、小学生で高く、中学生、高校生になるとその割合が少しずつ低くなっています。

図表 3 遊んだり、休んだり、自分の好きなことをする時間が十分にありますか



- 「ある」「どちらかといえばある」をあわせた割合をみると、小学生、中学生、高校生ともに約9割となっています。「ある」の割合をみると、小学生で高くなっています。

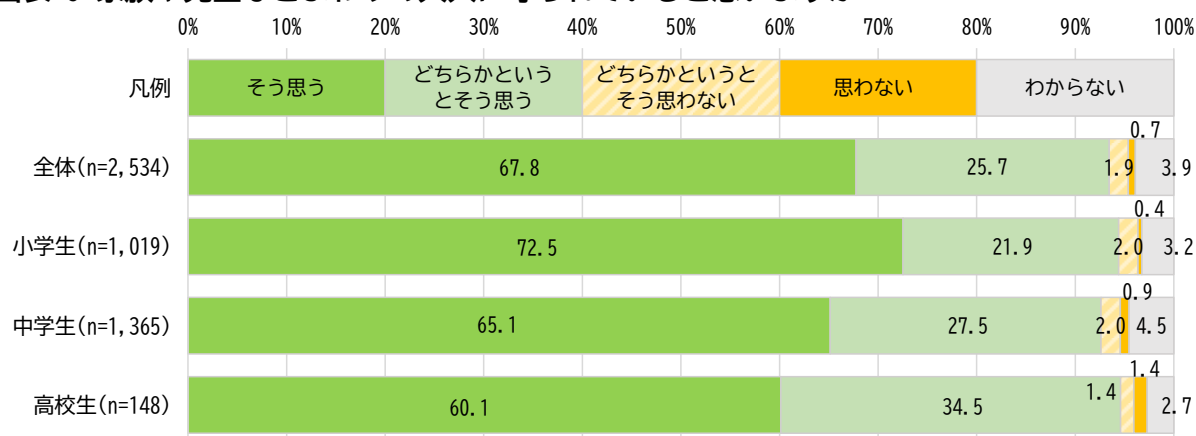
図表 4 ホットとできる場所〔複数回答〕



- 「自分の部屋」「家族と一緒に(いっしょ)に過ごす部屋」の割合が高くなっています。
- 年代があがるにつれて「自分の部屋」の割合は高くなり、「家族と一緒に(いっしょ)に過ごす部屋」の割合は低くなっています。

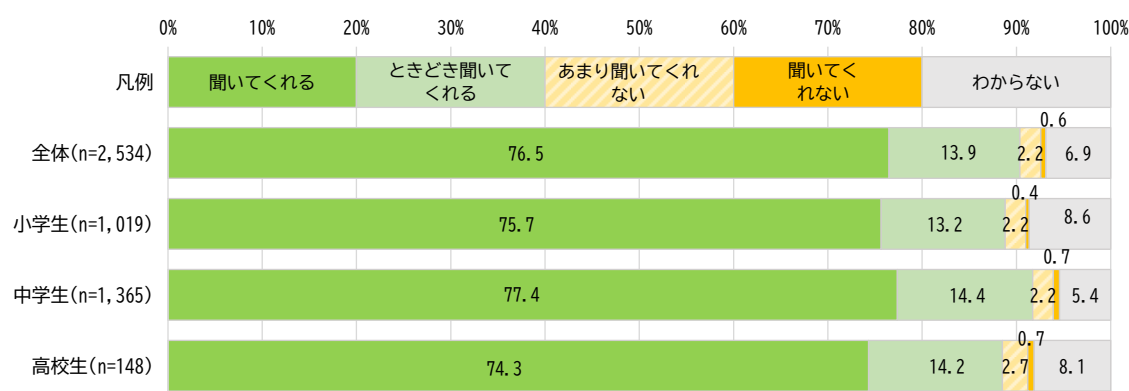
2. 家族や先生などまわりの大人について

図表 5 家族や先生などまわりの大人に守られていると思いますか



- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合は9割以上であり、多くの子どもたちが家族や先生などまわりの大人に守られていると感じています。

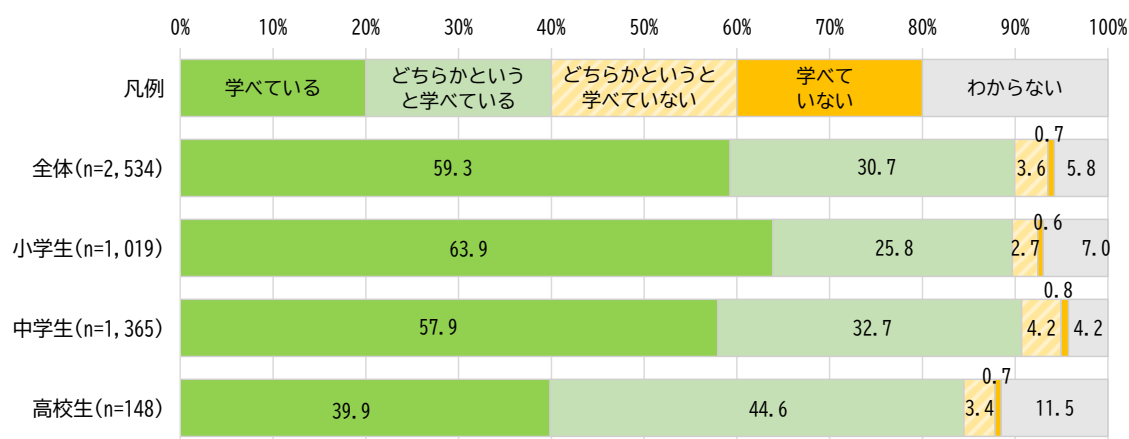
図表 6 家や学校などで、あなたに関係することを決めるとき、家の人や先生など大人はあなたの意見を聞いてくれますか



- 「聞いてくれる」「ときどき聞いてくれる」をあわせた割合は8～9割であり、多くの子どもたちが家の人や先生などの大人が意見を聞いてくれると回答しています。

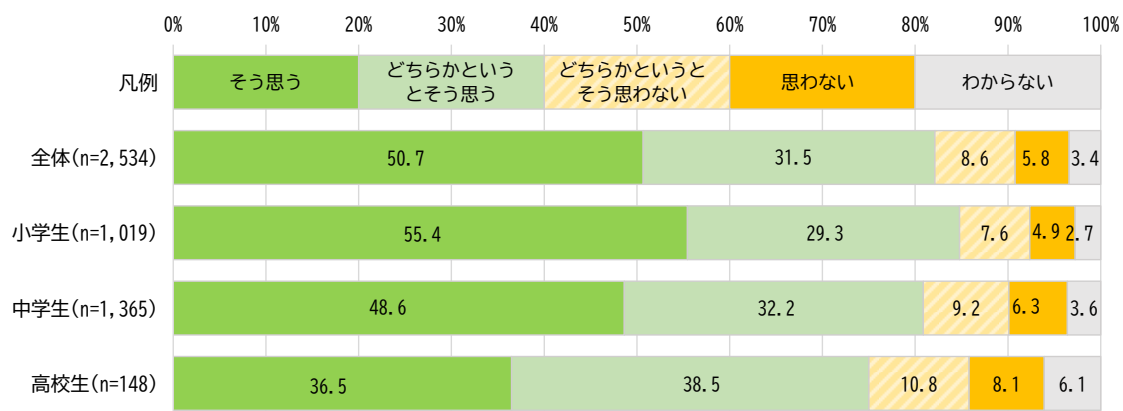
3. 学びや学校生活

図表 7 学校や家やその他の場で学びたいことが学んでいますか



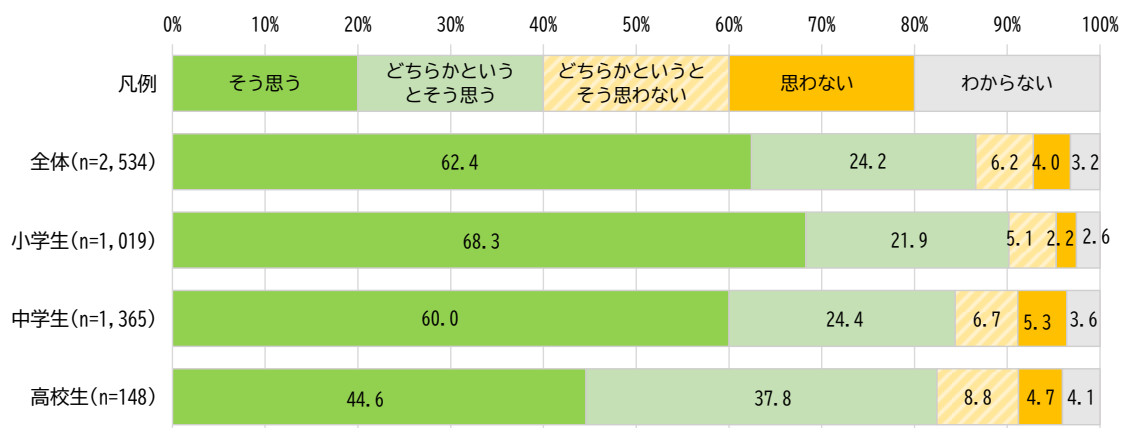
- 「学んでいる」「どちらかというと学んでいる」をあわせた割合をみると、8～9割となっています。小学生、中学生で「学んでいる」の割合が高くなっています。

図表 8 学校が楽しいですか



- 「そう思う」「どちらかというとそう思う」をあわせた割合をみると、7～8割となっています。小学生、中学生でその割合が高くなっています。

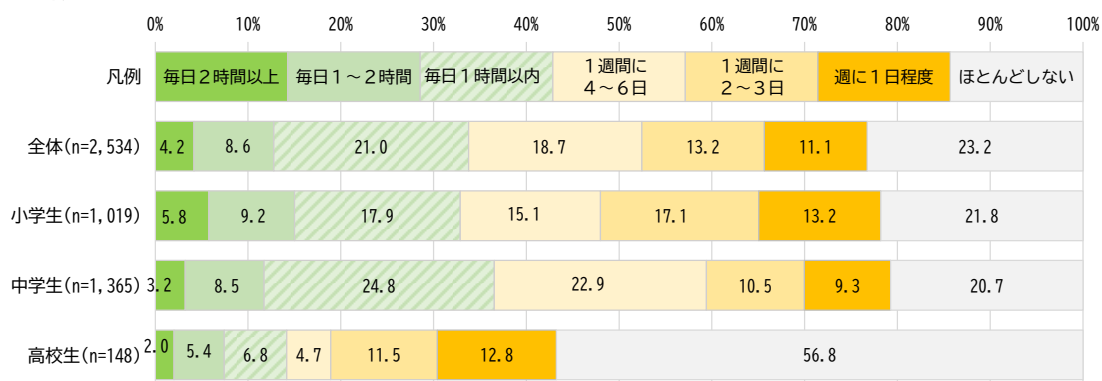
図表 9 学校での給食（食事）は楽しいですか



- 「そう思う」「どちらかというと思う」をあわせた割合をみると、8～9割となっています。「そう思う」の割合を比較すると、小学生で高くなっています。

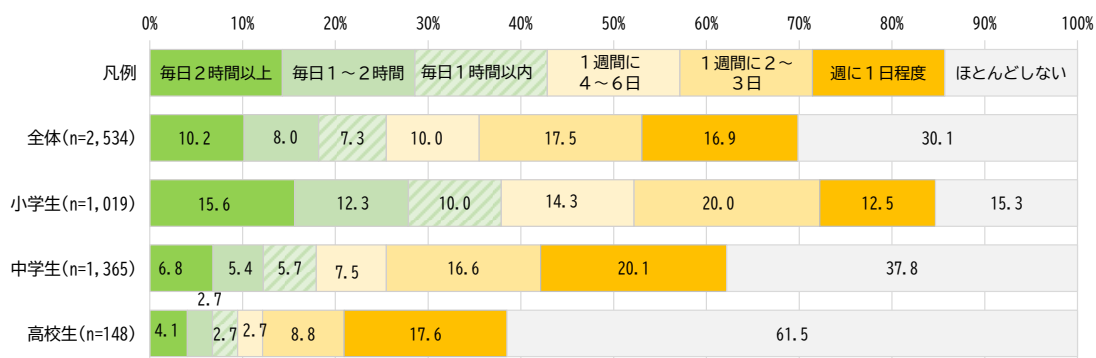
4. ふだんの生活の状況

図表 10 読書（マンガやざっしは除く）の状況



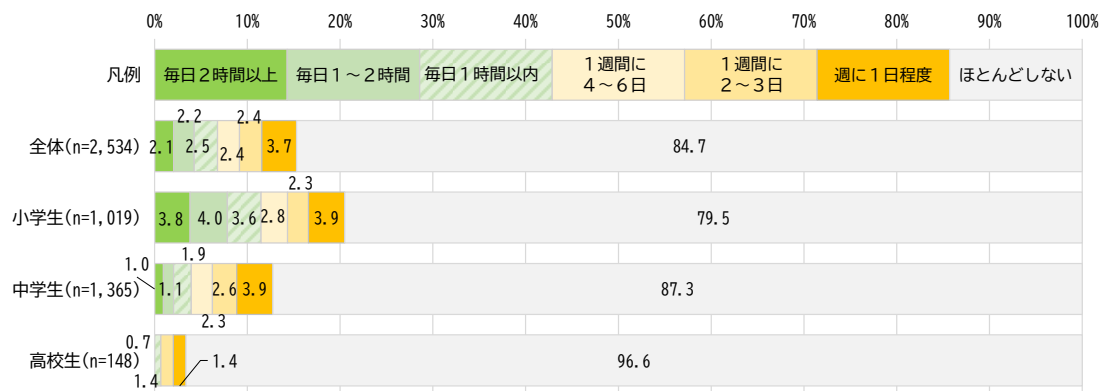
- 毎日、読書をしている割合をみると、小学生、中学生は3割程度となっています。「ほとんどしない」の割合は2割です。
- 高校生は「ほとんどしない」の割合が56.8%と高くなっています。

図表 11 公園や外で遊んでいる状況



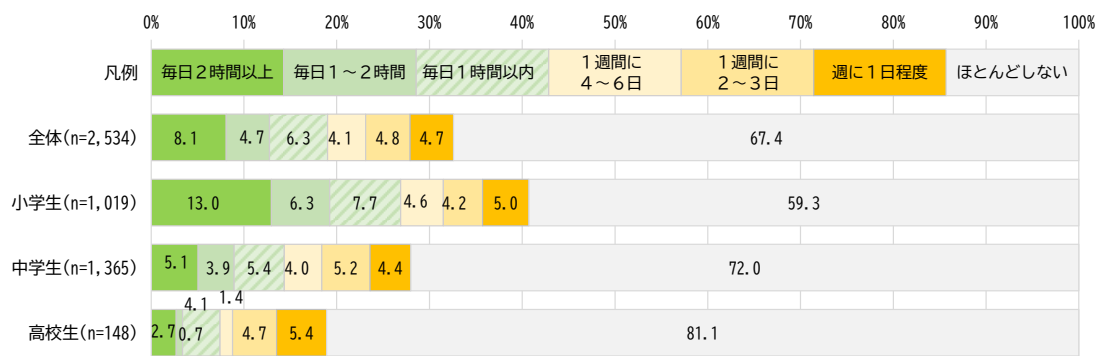
- 「ほとんどしない」の割合をみると、小学生は15.3%、中学生は37.8%、高校生は61.5%となっています。小学生で、公園や外で遊んでいる人が多くなっています。

図表 12 家族の介護(かいご)をしている状況



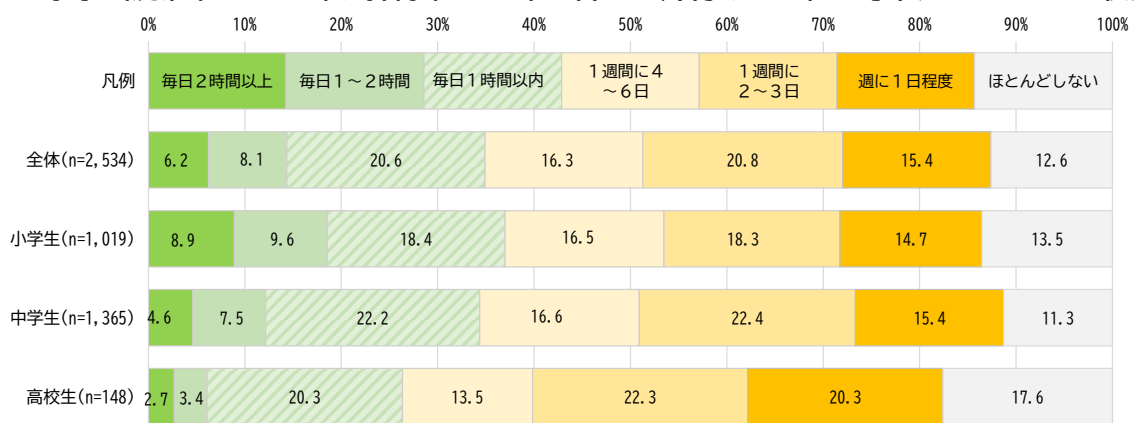
- 家族の介護(かいご)を「毎日2時間以上」している割合をみると、小学生は3.8%、中学生は1.0%、高校生は0.0%となっています。

図表 13 きょうだいなどの世話をしている状況



- きょうだいなどの世話を「毎日2時間以上」している割合をみると、小学生は13.0%、中学生は5.1%、高校生は2.7%となっています。

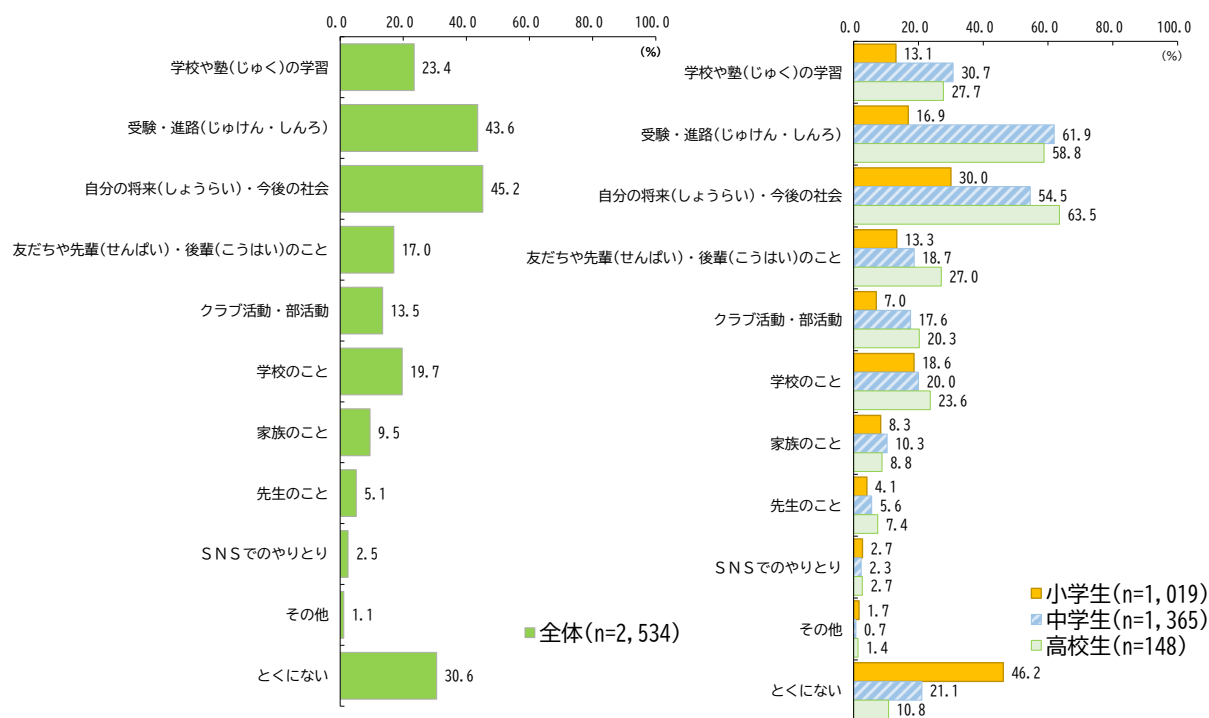
図表 14 家事(洗濯(せんたく)、掃除(そうじ)、料理、片付けなど)の手伝いをしている状況



- 「毎日2時間以上」している割合をみると、小学生は8.9%、中学生は4.6%、高校生は2.7%となっています。

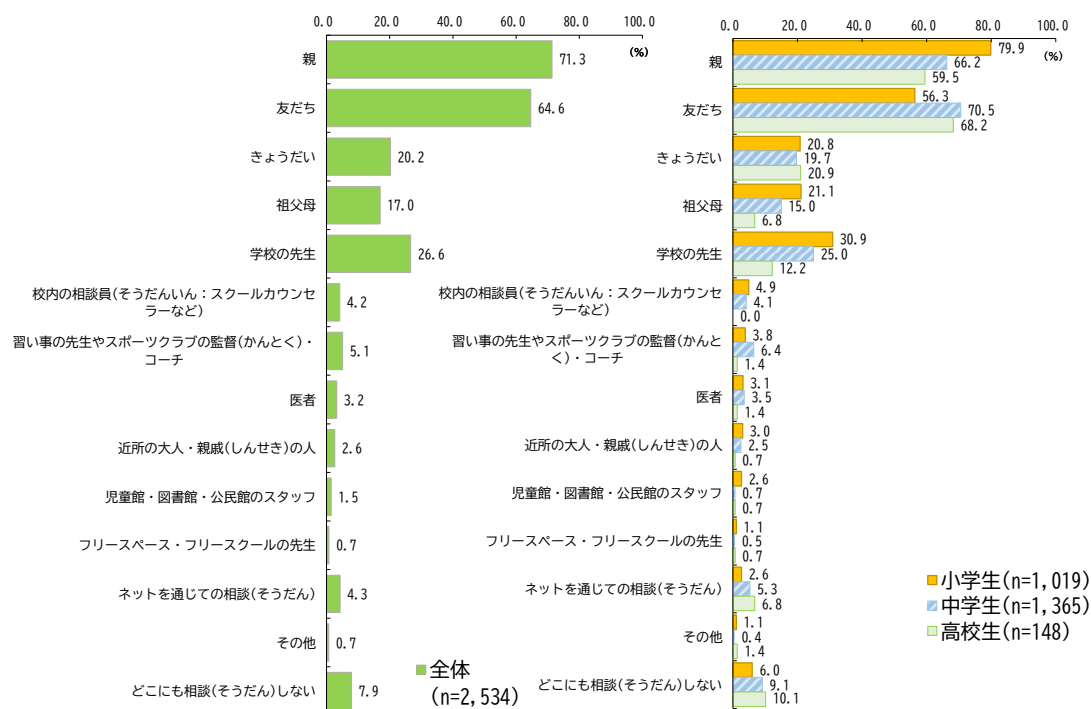
5. なやみや不安、相談先

図表 15 なやんだり不安に感じることはありますか〔複数回答〕



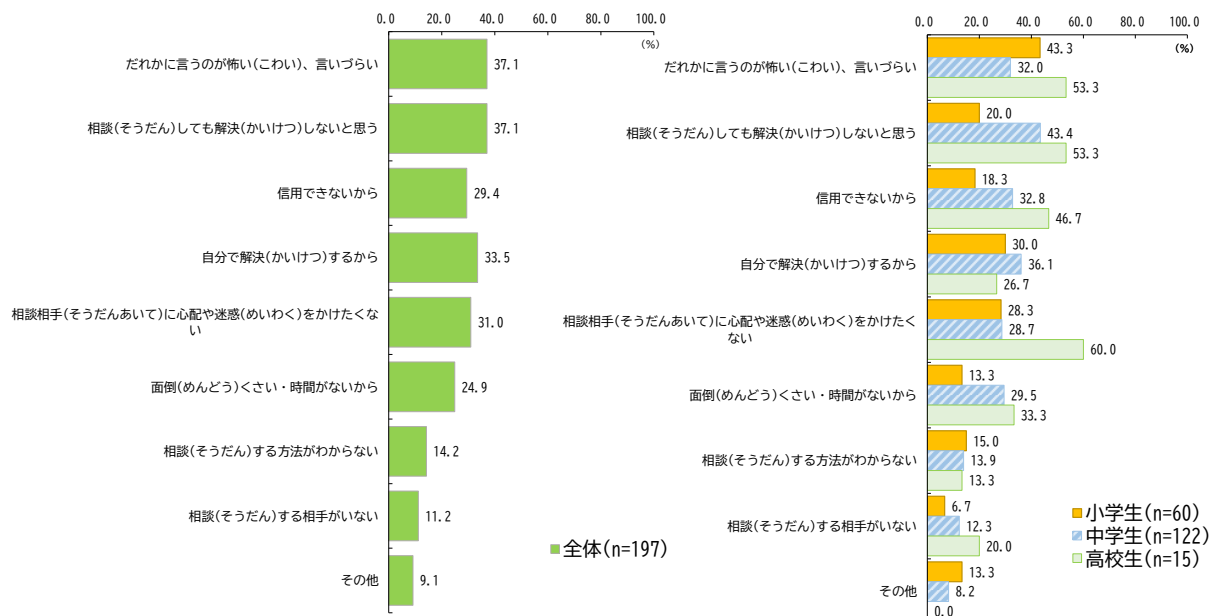
- 「自分の将来（しょうらい）、今後の社会」「受験・進路（じゅけん・しんろ）」と回答した人が多くなっています。
- 中学生、高校生になるほど、「自分の将来（しょうらい）、今後の社会」「受験・進路（じゅけん・しんろ）」に悩みや不安を感じる人がふえています。

図表 16 なやんだり、不安に感じるときに相談したい人〔複数回答〕



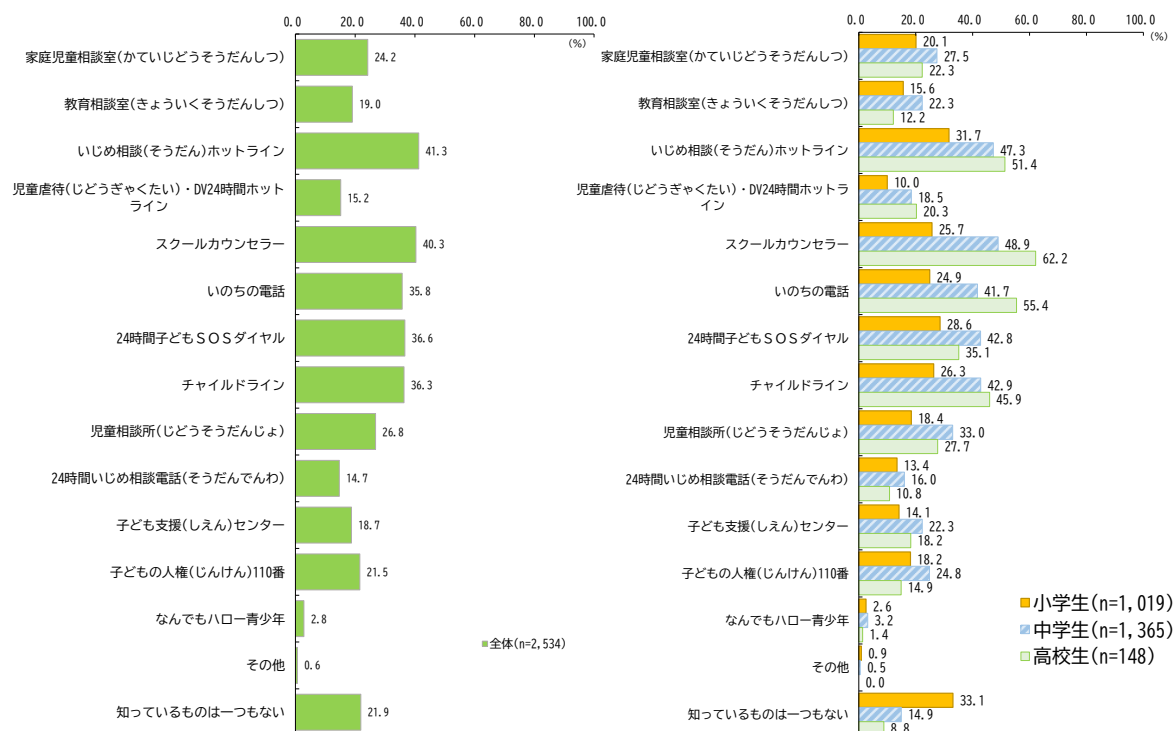
- 相談したい人は、全体では「親」「友だち」「学校の先生」の順に高くなっています。
- 学齢別にみると、学齢が上がるにつれて「親」「学校の先生」の割合は下がり、「友だち」の割合が高くなります。
- どこにも相談（そうだん）しない人は、小学生で6.0%、中学生9.1%、高校生10.1%となっています。

図表 17 「どこにも相談（そうだん）しない」と回答した人のその理由〔複数回答〕



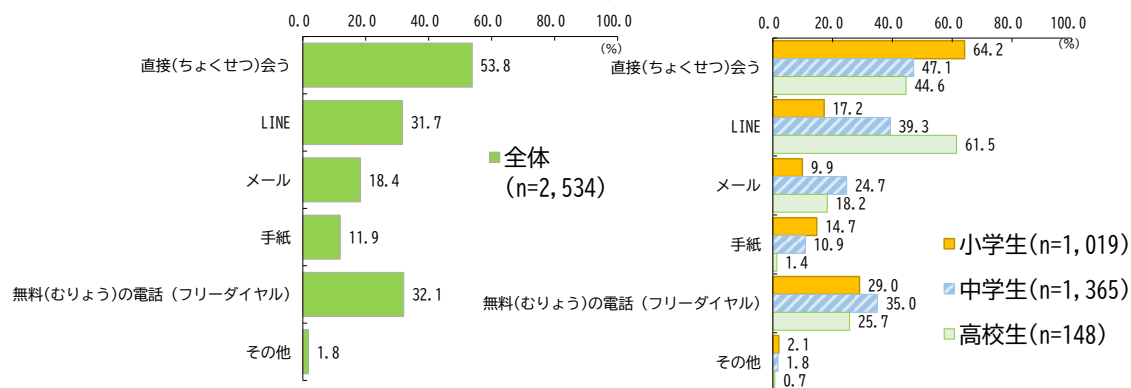
- どこにも相談（そうだん）しないと回答した人のその理由としては、小学生は「だれかに言うのが怖い（こわい）、言いづらい」、中学生では「相談（そうだん）しても解決（かいけつ）しないと思う」、高校生では「相談相手（そうだんあいて）に心配や迷惑（めいわく）をかけたくない」が多くなっています。

図表 18 子どもの相談所の認知度〔複数回答〕



- 「知っているものは一つもない」の割合をみると、小学生は33.1%、中学生は14.9%、高校生は8.8%と小学生で高くなっています。
- 中学生や高校生で「スクールカウンセラー」「いのちの電話」「いじめ相談（そだん）ホットライン」を知っている人は回答者の半数程度であり、浸透してきています。

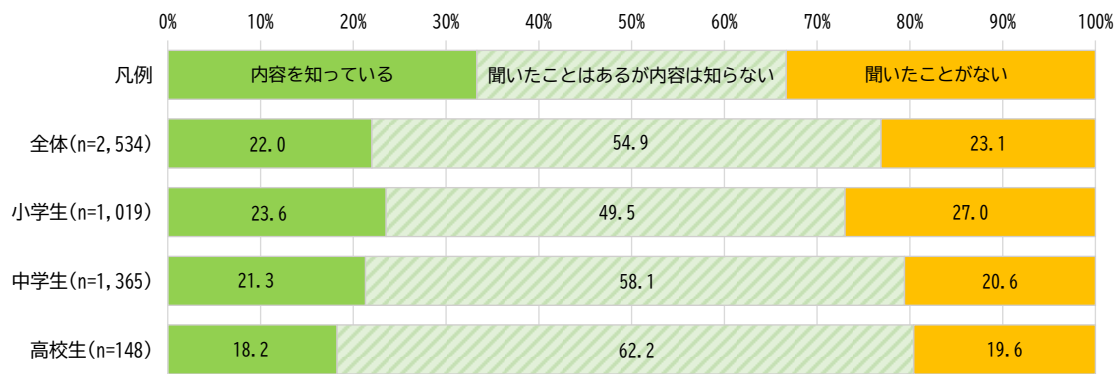
図表 19 相談するときを利用したい相談方法〔複数回答〕



- 相談するときの方法としては、全体では「直接（ちよくせつ）会う」が最も高く、ついで「無料（むりょう）の電話（フリーダイヤル）」となっています。中学生や高校生では「LINE」の割合も高くなっています。

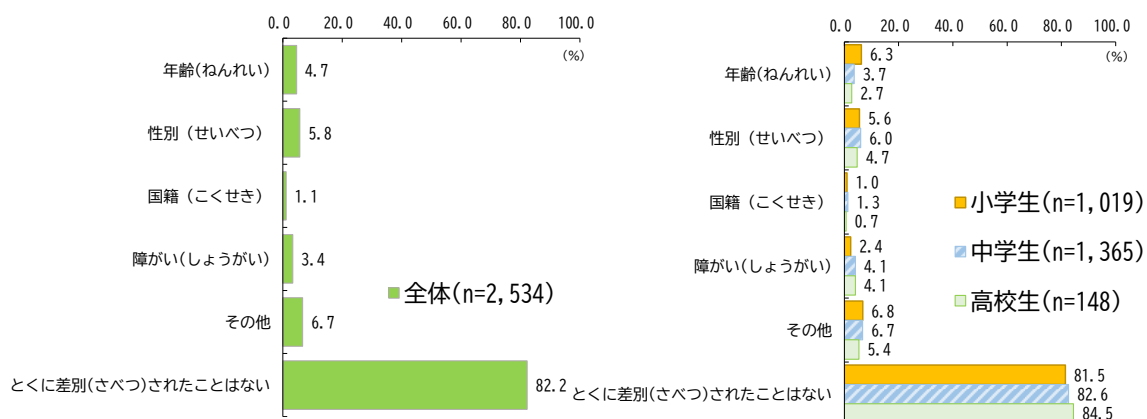
6. 子どもの権利や差別された経験

図表 20 「子どもの権利」を知っていますか



- 子どもの権利ということばを聞いたことがある人の割合（「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」をあわせた割合）は7～8割です。

図表 21 これまでどのようなことで差別されましたか〔複数回答〕



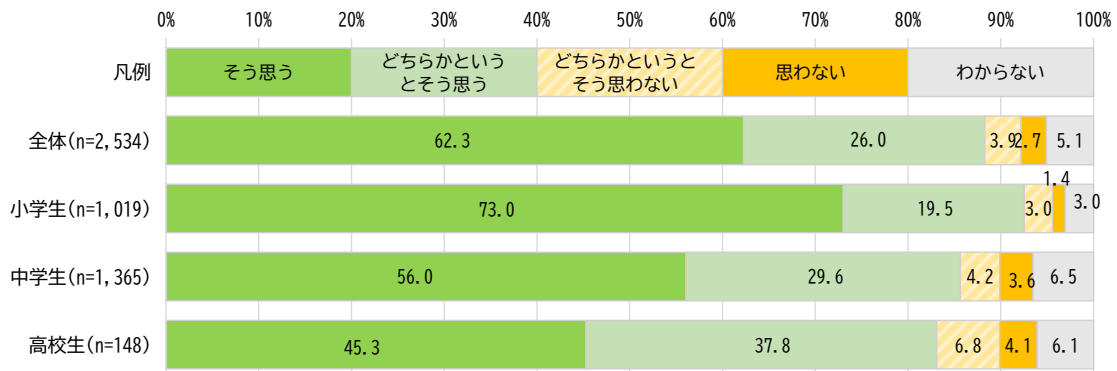
- 「とくに差別（さべつ）されたことはない」は8割であり、2割がなんらかの差別をうけた経験（けいけん）があると回答しています。

◆その他の内容 ※その他には、複数の記載があり、内容ごとに整理した件数である。

- ・身体的な特徴や能力（身長、体型、容姿、病気、運動能力、学力） …84 件
- ・性格、言動 …15 件
- ・趣味や活動していること …8 件
- ・名前 6…件
- ・特に理由はない、わからない …6 件
- ・その他 …27 件

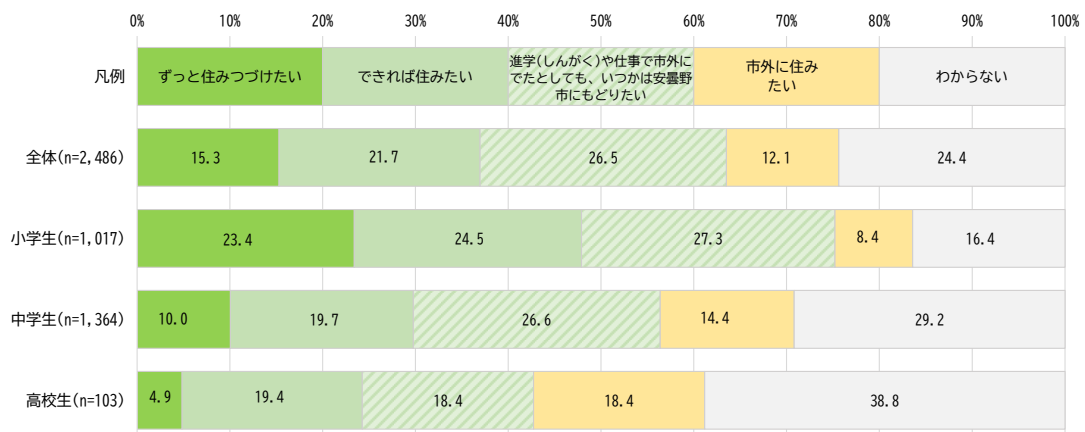
7. 住んでいる地域や安曇野市への定住意向

図表 22 住んでいる地域(ちいき)が好きですか



- 「そう思う」の割合をみると、小学生で高くなっており、中学生、高校生と学年が上がるにつれてさがっています。

図表 23 将来、安曇野市に住みつづけたいですか（市外に住んでいる人を除く）



- 「ずっと住みつづけたい」「できれば住みたい」「進学(しんがく)や仕事で市外にでたとしても、いつかは安曇野市に戻りたい」をあわせた割合をみると、小学生は75.2%、中学生で56.3%、高校生で42.7%です。中学生、高校生と上がるにつれて「市外に住みたい」「わからない」という回答がふえています。

8. 調査結果のまとめ

●学齢が上がるほど、不安や悩みが増え、自己肯定感、地域への愛着・定住意向が低くなる

- 中学生、高校生になるほど、「自分の将来、今後の社会」「受験・進路」に悩みや不安を感じる人が増えています。
- 中学生、高校生になるにつれて少しずつ低くなっていくことは、学校や学校での給食（食事）が楽しいと感じる割合、自分の好きなことをする時間、読書や公園や外で遊ぶ時間、自分のことが好きと思う割合などです。
- そして、「住んでいる地域が好き」「将来、安曇野市に住みつづけたい」という思いがある人が少しずつ減っています。中学生、高校生などの考え・思いを確認し、住んでいる地域の課題改善に向けた取組を考えていくことが求められます。

●多くの子どもたちが家の人や先生などの大人に守られ、意見を聞いてくれると回答

- 多くの子どもたちが家の人や先生などの大人に守られ、意見を聞いてくれると回答しています。まわりに頼れる大人がいる子どもたちが多い状況です。
- 悩みや不安があった際に、どこにも相談しない人と回答した子どもたちは1割です。学齢があがるにつれてその割合が少しずつ増えています。「自分は一人じゃない」と思えるような取組、ひとりで抱え込まないようなサポートが必要です。

●なんらかの差別をうけた経験があると回答したのは2割

- 「とくに差別されたことはない」は8割であり、2割の子どもたちがなんらかの差別をうけた経験があると回答しています。年齢、性別、国籍、障がいのほか、身長、体型、容姿など身体的な特徴や能力、性格などで差別うけた経験があると回答しています。
- こどもの権利の内容を知っていると回答した人の約2割で、どのような内容か知らない人が多く、子どもたちが持つ権利を広めていくことが大切です。

●家族の介護やきょうだいの世話、家事などの手伝いの状況

- ふだんの生活で、家族の介護などを「毎日2時間以上」している割合は以下となっています。

	家族の介護	きょうだいなどの世話	洗濯、掃除、料理、片付けなどの手伝い
小学（n=1,019）	3.8	13.0	8.9
中学（n=1,365）	1.0	5.1	4.6
高校生（n=148）	0.0	2.7	2.7

- こどもが家族の世話や家事をすることは、「お手伝い」の一環であればごく普通です。しかし、本来大人が担うと想定されている家族の世話や家事などを日常的に行っている場合は、その責任や負担が重くなり、こども自身がやりたいことができないなど、学業や友人関係などに影響が出てしまうこともあります。「家族のことは家族でなんとかしなければ」という思いで頑張るあまり、一人で悩みを抱えてしまったりする人がいます。「自分は一人じゃない」「誰かに頼ってもいいんだ」と思えるような取組を広げていくことが大切です。

9. 福祉教育委員会の考察と課題認識

- いずれの設問についても否定的な回答をする児童生徒が一定数いる。我々議会は、一人の子どもも取り残さないという思いで注視していきたい。そういった子どもたちをどの様に支援していくのかは大きな課題である。子どもの権利条例の制定の理由・意義もそこにある。
- 選択回答の「1. 自分のこと、好きなことをする時間、ホッとできる場所」「2. 家族や先生など周りの大人について」では、設問に対し7～9割が肯定的な回答を選択している。児童生徒が概ね安心して落ち着いた生活が送れていることはとても良いことである。一方で自分のことや家庭、学校に対して本人にとっての心地よい場所となっていない子どもたちがいる。
- 「自分が好き」と思っている子の割合は小学生 66.5%、中学生 55.1%、高校生 50%（図表 2）。自己肯定できる子どもが増えていく環境をいち早く整備する必要がある。
- 「ホッとできる場所」で、自分の部屋の割合が高い（図表 4）のは、自分を大切にしたいという意識の表れか。この点を含め、子どもを主体にした子どものための権利条例を考えていくことが必要。
- 「学校が楽しいですか」という設問に対し、「学校が楽しいと思わない」「どちらかというとなじみ」と思わない、分らない、が約2割を占める（図表 8）。多様な価値観を持つ子どもたちを受け入れられる、より一層柔軟性のある「学校」が求められている。
- 自分の将来や今後の社会について悩んだり、不安に感じている中学生・高校生がいる（図表 15）。悩みや不安が増えている子どもたちに寄り添っていきける体制づくりが大切である。また将来に対し不安ばかりでなく明るい展望が持てる地域・社会が必要である。
- 8%の児童生徒が悩みや不安を誰にも相談できないでいる（図表 16）。またどこにも相談しないと回答した人の理由として、「誰かに言うのが怖い」「相談しても解決しない」「相談相手に、心配や迷惑をかける」が多い。相談は身近な人でなくてもできること、決して迷惑ではないこと、解決に向けて前進することができること等を持続的に啓発することが必要である。
- 相談する場があるにもかかわらず、「知っているものは一つもない」の割合が小学生で 33.1%（図表 18）。いかに周知していくかが課題である。
- 「子どもの権利」について、「聞いたことはあるが内容は知らない」「聞いたことがない」は78%（図表 20）で、子どもの権利の理念への理解・認識が浅い。子どもが自らの持つ子どもの権利を実践的に学び、子どもの権利意識を高めるための支援がより必要となる。
- 地域が好きだと思わない子ども及び、安曇野市に住み続けたいと思わない子どもが年齢が上がるほど高くなる（図表 22、23）。その理由を子どもに聞いて、大人が子どもと共に考えたい。
- 今後、子どもの権利条例を制定し、子どもたちへの大人の意識、また子どもたち自身の幸せになる権利としての子どもの権利意識を高めていく中で、同様のアンケートを取り、条例制定の効果を検証する必要がある。

第3章 調査結果・自由筆記回答

【質問】あなたやお友達が学校や家庭、地域で安心して楽しく過ごしていくには、どのようなことが大切だと思いますか。

1. 概要

全回答数 2534 の内、自由筆記の回答数は 1626 で、全体の 64%が回答した。

A I による集計で、子どもの権利の 4 原則（①差別の禁止 ②子どもの最善の利益 ③生命、生存及び発達に対する権利 ④子供の意見の尊重）のカテゴリー分けを試みた。

内訳は①差別の禁止 432 人 26.4% ②子どもの最善の利益 3 人 0.2% ③生命、生存及び発達に対する権利 47 人 2.9% ④子供の意見の尊重 94 人 5.7%

尚、1060 人 64.8%がカテゴリーに分けられなかった。

※A I による集計結果については参考値とする。

2. 散見されるキーワードや注目した回答

- ・「地域の人たちとのつながりを持つ」「いろんな人たちのつながりを持つ」
- ・「みんなが」という言葉で始まる回答が多く、子どもたちも集団意識が高いと感じる。
- ・尊重と言う記述が多く、子どもたちが人を大切にすることが大事と言う認識が十分あると感じる。
- ・「居場所作りが大切である」
- ・「友だちにやさしくすることが大事」
- ・「相手のことを考えることが必要」
- ・「あいさつも大切である」
- ・SOS にも似たコメントがあり、気になる。
「みんながそれぞれを受け入れることは無理・・・」「私みたいに悲しくならないよう差別いじめを無くすこと」「あねきが殴ることをやめてほしい」
- ・人との交流が基本であり大切であると子どもたちも認識している。その際、差別や傷つける言動については子ども自身も認識している。
「誰とでも仲良く遊ぶ・・・みんなの意見を聞き・・・」「障害を持っている人も・・・差別をせずに仲良く」「心に付いた傷は癒えることはない・・・」「会話すれば、楽しくなる」「ひていされないこと＝大切」「自分が難しいものでも、友達といっしょに考えていくと良い・・・」
- ・環境が大切という意見も多くあった。
「公園などが整備されていたり、治安が良いこと」「安全に、自然を感じたりすることが・・・」「全ての子供が良い環境で生活できること」「熊などでの被害が出てこないように・・・」「衣食住がしっかりしていること」

3. 福祉教育委員会委員の考察と課題認識

- ・一部に暴力を受けているという回答があった。（赤字部分）相談窓口の周知徹底が必要である。

- ・ 他と協力する、助け合う、仲良くする、尊重し合う、思いやる等々、自他を互いに尊重し合うという記述が多い一方、自分の意見を堂々と話せる、自分を尊重する、自分が安心できる場所、自分を第一に守る、愛せる自分であること等々、自らの尊重についての記述が少ないと感じる。
- ・ 今回のアンケート自体も、要望や考えを表明する場（子どもが意見を表明する権利）として捉えてくれた子どもが居る。こういった機会・場を積極的に作っていく必要がある。大人は子どもたちの考えをしっかりと聞く耳、心が必要である。
- ・ 子どもの権利条例の制定により、子どもの意識、大人の意識改革を進めていく必要がある。
- ・ きちんと挨拶をする、ありがとう、ごめんなさいがきちんといえる人間が大切であり、それができていない親への教育、大人への教育も必要である。
- ・ 気軽に相談できる場所が重要である。
- ・ 自己肯定感が高い子どもたちは、前向きな意見を述べていると思うが、それができない子どもたちに向けた対応・支援が必要である。

第4章 これからの議会の取り組み

- ・ 今回実施した児童生徒アンケート結果は議会として公表し、子どもの権利条例制定に向けて今後行う各団体・各機関・関係者との意見交換会などでの参考資料とする。
- ・ 子どもの権利条例の制定自体が目的やゴールではなく、その後の市の実効的な子ども政策につながるように、市教育委員会など関係機関とも協議検討を重ねながら、条例制定に向けての取り組みを加速していく。
- ・ 条例制定の取り組みの中で、子どもの権利の理念を子どもたち自身を含めた市民の中に醸成していくようにしたい。具体的には、啓発講演会や条例案の説明会、また子どもたち自身との意見交換の場を設けていきたい。
- ・ 安曇野ならではの要素は何なのかを考え、組み込んでいきたい。
- ・ 条例制定に向けてのこれからの予定
意見交換会）校長会 PTA 連合会 松本児童相談所 児童館 長野県弁護士会子どもの権利委員会
その他）市民向けの啓発講演会、子どもたちへの子どもの権利を啓発する講座と意見交換会

参考 自由筆記回答の紹介と相談窓口

※自由回答の中からピックアップしています

- ・ 何処の国の人々が安心して暮らせるような環境。誰もが平等などんな時でも対応して行ける環境
- ・ いじめ、虐待、暴力、差別、陰口、セクハラ、スポハラ、などがないことが大切だと思います。（理由）
今まで信用信頼があった人がいじめなどをしてくると、人と合うのが怖くなってしまいます。心に傷をおってしまい学校などが来られなくなってしまうからです。心に付いた傷は癒えることはないと思います。
- ・ 学校、いじめがなくなること、障害を持っている人も、クラスのみならず少し変わった人も差別をせずに仲良く過ごせることだと思います。
- ・ 私みたいに悲しくならいよう差別いじめを無くすこと

- ・お母さんに同じことで注意されると、殴られる、たたかれる。どうすればいい
- ・あねきが殴ることをやめてほしい。
- ・みんなで仲良くできて、その人のことが苦手だとしてもその人のいいところをたくさん見つけて、仲良く、楽しくすることが大切だと思う。
- ・みんなで話を聞きあったり出来ることが大切だと思います
- ・差別なく、色々な人たちと楽しめる、事が大切だと思う。どんなことにも、挑戦できるようなことが大切で、協力できると思うから。
- ・地域の人達などに気軽に話せることが大切。
- ・みんなとの仲を深め、誰とでも仲良く遊ぶ。 みんなの意見を聞き喧嘩しないようにする。
- ・いじめや差別をうけずに、周りの人たちとしっかり向き合っていくことがたいせつだとも思います。
- ・相手を気遣いながらも自分の意見も堂々と話せること
- ・みんなが一人一人の人権を尊重すること。
- ・嫌なことがあったら、話せる人に話す。勇気。
- ・安心して過ごしていくために差別なく平和で過ごしていくことがこれからの過ごしていくための道筋だと思いました。
- ・すぐに差別をせず、自分が嫌な事はいっさいしないと決める。相手の気持ちを考えて自分もされて嬉しいこと相手もされて嬉しいことをどんどんしていく。もし「このこ嫌だな」と思ってしまったても口に出さない。それは言われたほうはもちろん悲しいし言った人もいい気分にはならないから。とにかく相手も自分も気持ちをよく考える。
- ・どんな人でも楽しく自由に生きていける環境が大切だと思う。差別はなくならないと思うけどできるだけ差別のない環境も必要だと思う。
- ・安心して楽しく過ごすには、みんなが自由に悩み事を相談できたり、その悩み事を優しく受け止めてあげられる人がたくさんいたらみんな安心して楽しく過ごせると思う。
- ・差別のないこと、自分の価値観を押し付けないこと、人の話を最後まで聞くこと、人を馬鹿にしないことが大切だと思います。
- ・災害などのとき「自分だけ助かればいい…」でなくてみんなで助け合えば地域の中も良くなるし交流の場を増やせば地域の人と交流する機会が増える
- ・自分の安心する場所を見つけること。みんな平等に接すること。もし嫌な思い、不安な思いがあった場合、溜め込まないで親などに相談すること。このことを大切に自分のペースで生活すること。
- ・みんながルールを守る。
- ・誰もが対等になりいじめや差別が起きないように 自分の言葉や行動に責任を持ち、一人一人が尊重し合うことが大切だと思う もし安心して楽しく過ごしていけないひとが出でしまったら少しずつ変わっていく
- ・いじめや差別は絶対になくして、地域の人とや、学校内の交流なども深めていくべきだと思う。
- ・みんなが安全に過ごし、虐待などのことをしないまちがいいと思う。
- ・差別なく、みんなが過ごしやすい環境を作ること（障害者などに優しく接し、障害者を介護するなど）
- ・みんながそれぞれを受け入れることは無理だと思う。
- ・大人が自分で気が付かずに差別していたり偏見があったりするのには子供を生んで教育したら子供にも差別の意識が生まれる事があるので大人が子育てをする前に「これは差別」「これは偏見」などを記したものを読ませる必要があると思う
- ・私の周りで国籍や障がい差別している人はお年寄りの方が多いので、固定概念に囚われた古い考え

が改善されたらいいとおもう。

- ・ 罰則を厳しくするしかないと思う。（差別やいじめはなくなるから罰則を考えるべきやと思う）
- ・ いじめや差別なくそれぞれの意見を受け入れて尊重し合っていくこと。
- ・ 公園などが整備されていたり、治安が良いこと
- ・ 相手の意見と自分の意見を聞き合い、両方にとって最善の案を出すこと。
- ・ 仲が良いこと。誰にでも相談ができる。
- ・ 安全に、自然を感じたりすることが安心できて、すごすことが、自分の中で大切だと思います。
- ・ 戦争がなく、安全、安心の地域がずっとつづく 時のことが、大事だと思いました。
- ・ 自然を守って安心で安全に過ごすこと！ この地域の守らないといけないことを守ること！
- ・ 言いたいことやしたいことを自由にできるだけして周りを頼りながら生活する
- ・ 心身の健康及び、お互いが親友だと思ひ合える友達と、いつでも味方でいてくれる家族が大切。
- ・ 交通マナーを守って交通事故をなくして、安全な地域にすることが大切だと思う。
- ・ 全ての子供が良い環境で生活できること
- ・ 誰かが、意見を言う時、静かに聞く。 ゴみを、ゴミ箱がいかに、置かない。 雨が、ふっているときに車を走らせる人が歩いている人に水しぶきがかからないように気をつける。
- ・ なにか決めるとき、親の意見だけで決めるのではなく、子どもの意見も聞いて決める。
- ・ ぎょうじに進んで参加する。地域の人が困っていたら助けてあげたり、「だいじょうぶですか」と聞いたりして地域の人が安心できるようにする。会話を多くする。
- ・ やっぱり子供の意見も加えて地域の事を考えてほしいです
- ・ 子どもの意見も市町村が聞いてほしい
- ・ 大人の意見も子どもの意見も聞くことが大切だと思う。
- ・ 自分の意見などをはっきり言って、お互いわかり合えればいいと思う。
- ・ 助け合い 協力すること 相手や近所の迷惑になるようなことをしない 近所や相手の気持ちを考えること 必要な情報を共有すること 地域の行事やイベントに参加すること
- ・ 人が困っていたら見て見ぬふりをしないで相手が困らない程度に積極的に話す。
- ・ 中学生や大人だからといって地区の活動に参加しては行けないわけではないから安曇野まつりや長期休みのときのラジオ体操などに参加して、身の回りにどんな人がいるのかなどを知ること等
- ・ 地区の行事に参加する。
- ・ お互いがお互いを尊重し合い、誰もが過ごしやすい世界を誰もが作ろうとするその意志が大切だと思う。 誰かが始めれば、それは世界中に伝染しつつの間にかそれが当たり前の世界にきつとなっているはずです。なので、小さなところからお互いを尊重し合うことが大切だと思います。
- ・ 人の意見を尊重し、否定的にならないこと。
- ・ わたしがいいたいことがちゃんといえること
- ・ 私は友達と楽しく暮らし 喧嘩もしないでご飯を一緒に食べて勉強をしてそういう 毎日がいいと思います
- ・ 相手に伝わりやすいように言葉を工夫したり、礼儀正しくあいさつしたりすることが大切だと思います。
- ・ 大人が守ってくれるだけでなく自分は自分で守って人生を大切に過ごすことだと思います
- ・ 衣食住がしっかりしていること。
- ・ 友達を大切にし、あまり、自分にマイナスなことを考えないことや、自分が難しいものでも、友達といっしょに考えていくと良いと思う。

- ・自分が嫌なことは相手も嫌だから、そう言うことをしない。 障害などがあってもその人は頑張っているから、馬鹿にしたり、いじめたりしない。
- ・自分が言えることではありませんが、一人ひとりが思いやりを持ち、それを行動に移せるようになることとまた、他の人の気持ちを理解したうえでの言葉づかいやその人への態度などが大切だと思います。
- ・とりあえず、自分の居場所を持つ。
- ・一人一人の良いところを大切にすることだと思ふ
- ・子供だからといってあれやれといわずに子どもの話も聞くことが大切だと思います
- ・自分が「いやだな」と本気で思ったら伝えてみることに。
- ・大人の人と話（悩みなど）を聞いてくれること。
- ・ポイ捨てがなく犯行も起きない地域
- ・熊などでの被害が出てこないように配慮してほしい
- ・自分がやりたいことをやる
- ・しっかりと相手のことを考えて自分も相手もいい気持ちになれるような行動をすること
- ・安曇野市が支援体制を拡充して行ったり、子供や親の不安が無いようなサポートしていったり教員等の団結力が重要でしょうね。まあ、私も障害を持ってる身です。教員達が障害を持ってる方々(一部の生徒)へのサポートを手厚くするべきだと思います。あと、小学校の一部の教員が見た目で分からない障害を持っている子達に対して嫌な事だったり高圧的な態度だったり怒鳴る等の事をしているケースがあるかと思っています。それについて市はご存知なのでしょうか？ご存知ない場合は抜き打ちで調査するべきだと思います。ただ、小学校にいた時に限らずの支援は不満大あります。支援等を拡充して頂くことを期待しています。小学校の支援級の一部の教員が支援計画等を出しても口だけではそう言ってて実際は支援しないみたいなパターンもあるのをご存知ですか？私自身がそのような事がありました。そのような事が今後無いように支援級や原級の教員等の研修をしっかりやって頂きたいと考えています。一部、理解していない教員の方々がいらっしゃるかもしれません。そのような方々にも理解できるように、して頂きたい。と思います。(上から目線が一部あるかもしれません。もし上から目線の部分があったらすみません)
- ・悩み事があったときは誰にでも信頼できる人に相談できる環境を作ることが大切
- ・友達に触られたくないところを触られたときに、子供だからしょうがないと片付けてほしくない。
- ・その時思ったことを、感情的に言うのではなく、相手がこれを言ったらどう思うかを考えて発言したら、楽しく過ごせると思う。
- ・少し性格とか苦手な人とは無理に挨拶もかわさなくていいと思う。仲良くなれそうな人達と友達になったりするのが良いと思う。
- ・相談できる環境
- ・人を見たりパット見で判断するのではなく人の話をよく聞きすんなり受け入れてあげること
- ・それぞれがそれぞれの個性などを活かして協力していくこと
- ・私はどこでもいいから自分の心が落ち着いたり、楽しいと思ってすごせる場所を見つけることが大切だと思います。
- ・自分がされて嫌なことはやらないということ、自分の言われたくないことは言わないことが大切だと思った。
- ・「子供だから」をやめてほしい
- ・なにかを強要するのではなく、お互いのことをできるだけ思い合って過ごすこと。
- ・自分の思いをちゃんと聴いてくれて、「あなたは どうしたい？」と自分が何をしたいと思っているのか

を受け止めてくれること。

- ・自分自身を大切に、愛せる自分であること。 相手を思いやること。
- ・地域間でのコミュニケーションスキルを深め、都会にはない「田舎」のぬくもりを高めていくこと。そのためにはやはり学生などの若い人から挨拶程度のことも始めていくべき。
- ・困ったことがあっても内容的に先生に相談しにくいようなことや、個人の悩みで先生に相談しても解決することがないような問題の解決する機会がほぼ無いので、クラス内などの制限がない状態で生徒同士での1対1の話し合いの時間をすることによって悩みで苦しむ人が減ると思う。
- ・定期的に地域の人々や学校の縦のつながり会話できる機会をつくること。
- ・きれいな水を維持する
- ・大人が子どものところを応援してくれること
- ・誰かを陥れたり、裏切ったりせずに純粋な気持ちを大切にすることが大切だと思う。
- ・先生や学校はいじめがあったときいじめがなかったことにする 先生たちがこまるからかもしれないだからいじめた子が学校にいけないでいじめられた子はいけないことがある いい先生もたくさんいるけどそうじゃない人もいるとおもう こどもの権利はいつもじゃない

相談窓口

- ・子どもと親の相談電話

ひきこもり・学校での交友関係・ネットいじめ・不登校・家庭内暴力や万引き等
教育相談室 0263-72-2238 平日 9時から17時

- ・松本いのちの電話 0263-88-8776 毎日 11時00分から22時00分
- ・長野いのちの電話 026-223-4343 毎日 11時00分から22時00分